

会 議 録

1 会議名

平成27年度第4回北諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【諮問事項】

諮問第9号 新市建設計画の変更について（公開）

【協議事項】

地域活動支援事業に係る意見・課題及び改善策等について（公開）

3 開催日時

平成27年8月28日（金）午後6時30分から午後7時16分まで

4 開催場所

上越市立公民館 直江津地区館 北諏訪分館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委員： 白木朝雄（会長）、水上千恵子（副会長）、池田民雄、小林春雄、高橋登志満、西條榮市、松榮英喜、渡部義夫（欠席4名）
- ・ 事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任
企画政策課：大島副課長、柳沢主任

8 発言の内容

【関川センター長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【白木会長】

- ・ 挨拶
- ・ 会議録の確認：西條委員、松榮委員に依頼

議題【諮問事項】諮問第9号 新市建設計画の変更について（公開）担当課へ説明を求める。

【企画政策課：大島副課長】

- ・挨拶
- ・参考資料1「新市建設計画の変更の考え方」により説明

【白木会長】

説明に対して意見等を求める。

【渡部委員】

説明の中にあつた合併特例債だが、金額的には決まっているのか。

【企画政策課：大島副課長】

建設事業には、600億円まで使える枠がある。今現在190億円使っている。あと410億円の枠については、現在の計画では平成34年度までに「新クリーンセンター」、「新水族博物館」、「学校や保育園の建設」、「道路の整備」などで300億円程使わせていただきたいと考えており、使い道の詳細は、毎年議会から承認を得てきちんと決めていきたい。

【池田民雄委員】

「事業名の修正」で「県立武道館（仮称）」になるが、敷地一帯が県立武道館になるのか。

【企画政策課：大島副課長】

「総合運動公園」という名称で、体育施設を増やしていく構想であるが、そのうち、武道館は県が造る。その他の施設は市が造る予定である。

【池田民雄委員】

では、総合運動公園の一部に県立武道館を造るということか。

【企画政策課：大島副課長】

そうである。

【白木会長】

「平成52年度に上越市の人口は15万人程度になる」と話されたが、各自治体は少子化の問題をかなり取り上げて対策を講じている。上越市もいろいろ検討されていると思うが、どうしても人口の流動がある。大学を出ても地元職がない。豪雪地帯で物理的な条件もあり、企業の誘致は難しい点があると思うが、若者を確保するためには、企

業誘致が一番重要な部分だと思う。まずは、若者を地元に着させると言うことが少子化解決の部分に繋がっていくと思うので行政が第一に考えなければならないと思うが、その部分が計画にあまり謳っていない。

【企画政策課：大島副課長】

就職対策が弱いという御指摘をいただいた。国も2060年には、人口が1億人を割る危機感をもっており、全国の自治体に「地方創生」の取組を呼びかけている。上越市の戦略としては、10月を目途に3つの柱を作成することとしており、1つは「仕事作り」、2つ目は「結婚、出産、子育ての環境を整える」、3つ目は「地域を活性化する」である。具体的な事業も入れ込みながら議論し、その中で若者の定住についても考えている。現状では、平成25年度に高校を卒業された方が1,700人、そのうち500人が地元に着職され、残りの1,200人は進学したが、卒業しても地元に戻って働く場所がないということは認識している。その方たちが戻って就職できるような企業を誘致したいということも含めて、「地方創生」の中で良い方向性を見出さないと人口が減ってしまうという危機感を持ってやっていきたいと考えている。

【白木会長】

旧13町村については、限界集落的な町内があるとも聞いているし、政府は、昨年からは謳っている「農業改革」で、「中間管理機構」について指針を出したが、停滞しているので、「地域の活性化」が後手に回っている。私が思うには、「地域の活性化」は聞こえがよいが、進捗がないので非常に残念に思う。行政として積極的に対策を講じるべきだと思う。

【企画政策課：大島副課長】

「農業を絡めて地域を活性化させたい」ということについては、農林水産部が取り組んでいる。清里区では農業法人が地域の活性化に向けて商店を運営している。行政も財政上厳しく、職員も減少傾向にあるので、地域の受け皿を持った組織が行政の代わりとなり、それが地域の活性化につながればよいという思いはある。市から押し付けるのではなく、各地域にとって何が良いのかということ、地域の方々と話し合いながら、活性化に向けた方法を見出すことが大切であると思う。

【白木会長】

地域の方々は自分たちで事業を起こし、地域の活性化のために尽力しているので、ある程度、行政がバックアップしていくことが大事なことだと思う。

他に意見等がなく、採決に移る。

諮問第9号 新市建設計画の変更について、適当と認める方は挙手願いたい。

(全員挙手)

では、この件については「適当と認める」とする。

— 企画政策課 退室 —

続いて、【協議事項】地域活動支援事業に係る意見・課題及び改善策等について、事務局から説明を求める。

【荒木係長】

地域活動支援事業に係る意見・課題及び改善策等については、事前に意見は挙がっていないが、何かあれば御協議いただきたい。意見があった場合は、全市的な意見は市へ報告するか協議し、北諏訪区だけの課題であれば当協議会で協議していただきたい。

【白木会長】

北諏訪区では、配分された490万円をいろいろな所で使わせていただいている。追加提案では、北諏訪区町内会長協議会で「非常用持出袋と非常用給水袋」を購入し、9月1日号の広報上越と共に各家庭に配付される。今回配付されない地域は、来年度以降の地域活動支援事業を想定し、順番に購入していきたい。各町内には「地域活動支援事業費で購入した」と回覧しているので、町内の皆さんから「地域協議会はこのものなのだ」と認識してもらえと思う。

私は常々話しているが、地域の外へ出ないとなかなか分からない。年に数回、地域協議会会長会議に出席しているが、課題等の説明で気づくことがある。研修等を開くと考え方も少しは変わってくると思うので、事務局へは来年を見据えた形で、各委員が考えやすく、行動しやすいように考えていただきたい。

【高橋委員】

「非常用持出袋と非常用給水袋」の配付の件では、全町内に行き渡らなかったことを大変残念に思う。今回4町内だけに配付されるが、もし防災訓練等で配付物を使用される機会があったら、ぜひ記録写真を撮って私にいただきたい。

【白木会長】

地域が元気になるための地域活動支援事業だが、北諏訪区の提案が少ない理由は住民が奥床しくて遠慮されているからなのか。

【西條委員】

北諏訪地区にも新しい提案団体があれば一番良いのだが。

【白木会長】

・委員に意見・課題等を求めるがなし。

北諏訪区で取り組むべき提案の掘り起こしは必要であるし、配分された予算は有効に使うようにしていきたい。

この件については終了とする。

事務局へ連絡事項を求める。

【荒木係長】

前回の協議会でも話をさせていただいたが、12月13日に「地域活動フォーラム」があり、北諏訪区から1事例を推薦することになっている。対象事業は平成26年度と平成27年度に採択された事業である。どの事業を推薦したらよいか御協議いただきたい。

【白木会長】

この件について、何か推薦したい事業はあるか。

— 委員同士で話し合い —

では、「子どもに茶道を教える会」を推薦したいと思う。

次回の協議会について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

現在、諮問等の案件はなく、次回協議会日程は会長と相談させていただきたい。

【白木会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。